

2019年度 3教科B方式 日本史

(I)

【解答例】

- 問1 ア 延暦 イ 馬子 ウ 菅原道真 エ 興福 オ 末法
問2 A ① B ⑩ C ② D ⑥ E ⑤
問3 ③
問4 (a) ③ (b) ① (c) ④ (d) ② (e) ② (f) ① (g) ①
(h) ④ (i) ③ (j) ③ (k) ④ (l) ①

【講評】

古代の寺院に関する問題です。問2の寺院の所在地を答える問題は、Cの仁和寺を除いて正答率が低く、やや難しかったかもしれません。問4(k)は②に誤答が集中しましたが、藤原基経が関白となったのは光孝天皇の時です。

(II)

【解答例】

- 問1 (a) ④ (b) ② (c) ③ (d) ④ (e) ② (f) ① (g) ③
(h) ③ (i) ① (j) ④
問2 (ア) 1189 (イ) 1441
問3 戦国期の一向宗は蓮如に率いられ、講という集合体を組織するとともに、御文という平易な文章を用いることで教線を拡大した。特に北陸地方ではその勢力が強く、加賀国の一向一揆は富樫氏を追い出し、守護権力と同等の実力を獲得するに至った。

【講評】

問2の年号問題の正答率が低かったです。特に(ア)は教科書では表にしか出てこないことも多く難問だったかもしれません。問3については「講」を「溝」と誤読し、「室町幕府と溝ができた」といった誤解答が散見しました。

(III)

【解答例】

- 問1 ア キリシタン イ イギリス ウ 朱印 エ 徳川家光
問2 (a) ② (b) ① (c) ② (d) ② (e) ③ (f) ② (g) ②
(h) ① (i) ④ (j) ④ (k) ③

【講評】

(III)は安土桃山時代から江戸時代の対外関係を中心とした問題です。正答率の低かった問1のイは、アジア・日本への貿易進出をはかったヨーロッパ諸国の位置づけについて、整理された理解ができているかを問う問題です。スペイン・ポルトガルに遅れてアジア貿易に進出し、新教(プロテスタント)国であったというリード文の情報に着目します。旧教国か新教国かの相違は、江戸幕府との関係のあり方に大きな影響を与えた点ですので、十分に理解しておく必要があるでしょう。一方、これらヨーロッパ諸国が東アジア貿易で根拠地とした場所の相違を問うたのが問2の(a)ですが、この問題は高い正答率でした。

(IV)

【解答例】

- 問1 A 北里柴三郎 B 大森房吉 C 高峰譲吉 D 野口英世 E モース
F 湯川秀樹 G 木村栄
問2 ア コッホ イ 関東大震災(関東大地震も可) ウ 黄熱 エ 文化
オ z(ゼット)(木村も可)
問3 i ④ ii ②、④(順不同) iii ① iv ③ v ② vi ③ vii ①

【講評】

近代日本で科学に貢献した人物についての問題です。問1ではBの正答率が低かったです。Aの北里柴三郎の「柴」を「紫」とするもの、Dの野口英世の「英世」を「英雄」、「英夫」とする誤答が散見されました。問2アの正答率は極めて低かったのですが、オについては比較的高い正答率が得られました。問3は重要語句集の頻度の高いものからの出題ですが、学校現場での取り扱いの関係からか、全体的に正答率は低いものにとどまりました。